

# 東地域まちづくり協議会だより 第32号

東地域まちづくり協議会 会長 大嶋 充

## 若者や女性に選ばれる東地域になるためには

8月31日（日）、市芸術文化館において「若者・女性に選ばれる地域に向けて」と題した講演会がありました。この講演会は、市が主催で、自治振興委員連合会と男女共同参画社会推進氷見連絡会が共催でした。

急速な人口減少への対策が大きな課題となる今日、氷見市・東地域が若者や女性に選ばれるまちになり、人口減少を食い止めることが課題となっております。

この講演では、女性活躍を支援するウイルラボの代表取締役の小安美和さんが、多様な人材が活躍できるまちづくりについて具体的に話して下さいました。



氷見市においては、特に、若年層の女性が進学により転出して帰ってこないことが、大きな要因であるといわれ、例えば、次のようなことがあげられています。

◇希望する就職先がないこと。◇性別で役割を分けようとする意識が根強く残っている。などが若者流出の原因であると指摘されています。

私たちは、このような考え方や風習を見直し、若者や女性に「住みたい・育てたい・働きたい」まちづくりを目指していくことが大切なことと言えます。

## 「東（北部）地区防災訓練」について

9月7日（日）、東地域まちづくり協議会・北部地区防災会主催による防災避難訓練を実施しました。このねらいは、次の通りでした。

- ◇津波警報が発令され、避難場所である比美乃江小学校へ安全に気をつけて避難できる。
- ◇安全に避難するための経路と配慮をしなければならぬ事項を確かめる。
- ◇要支援者に対する配慮事項を確かめる。



◇東地域まちづくり協議会の役員並びに北部地区の住民が避難する際の知識や行動を身につけ、今後の活動に生かすなどでした。

なお、今回の最重要目標として掲げた、避難所の解錠法の周知徹底については、諏訪野地区の自治振興委員で本協議会役員の吉崎様が、去年の経験を踏まえて、大変分かりやすく説明して下さいました。

## 「認知症になっても安心して暮らせる東地域に！」

10月18日（土）、氷見漁業文化交流センターにおいて、地域包括支援センターの皆様による標記の講座が開催されました。

認知症の人、認知症が原因で行方不明になる人が近年増えています。ご自身・ご家族が認知症になるかも知れません。それに備えて、認知症のことや声かけの仕方について分かりやすく、しかも要領よく説明して下さいました。また、実際に声かけ訓練もしました。

もし、認知症の方がいたら、出会ったら、

- ①まずは見守る。②余裕をもって対応する。
- ③声をかけるときは一人で。④後ろから声をかけない。⑤やさしい口調で。⑥おだやかにはっきりとした声で。⑦相手の言葉に耳を傾けてゆっくりと対応する。⑧安全を確保する。

⑨相手に説明をして、状況に応じて家族や警察、救急に連絡する。という接し方が大切であるということでした。

私たちは、いつ認知症になるか分かりません。大切なのは、認知症の人の思いを理解して、前向きに心豊かに暮らせるように、今こそ東地域の人々が互いに助け合う共助の姿勢を発揮し、安心して安全な地域づくりを実践していきたいと思います。



## 「カギかけ運動・特殊詐欺にあわないように！」

6月4日（土）と10月11日（土）の両日、カギかけ運動と詐欺にあわないための啓蒙活動として、今年もビラを配り被害の防止を呼びかけました。

地域の皆様には、くれぐれも被害にあわないように警察活動と連携を図り、犯罪や非行のない明るく住みよい東地域にしましょう。